

県PTA大会で

長谷川さんのお話を ききました

2023年11月11日(土)

滋賀県PTA大会 全体研修会レポート

滋賀県PTA大会 全体研修会

講師：長谷川 義史 氏
演題：絵本から生まれるもの

今年の県PTA大会は、
絵本作家 長谷川義史さん
をお招きしました！

長谷川さんの絵本作家としてのデビュー作は『おじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃん』

「最初は本を1冊出したら満足だった。けど、読んだ（読んでもらった）子どもたちの反応がよくて、だんだん反響が広がっていった。それが嬉しくて 次の本を出した。」その連続で絵本がいっぱい出版できてきたとのこと。

おじいちゃんのお父さんは「ひいおじいちゃん」、そのまたお父さんは「ひいひいおじいちゃん」。ひいひいひい・・・と連なって、この一つの「ひい」で20年くらいつながっている。「今の命は、ひいひいひいひいのつながり、奇跡的なこと。肌の色がちがう人も同じ命。生きているうちだけでも仲良くできたらいいのに・・・」と。

この日は奇しくも 11月11日。
長谷川さんは「いいから いいから の日」と名づけられ、
模造紙に 筆で絵を描きながら「いいから いいから」のお話をさ
れます。

長谷川さんはいつも 筆で描いているとのこと。「太い筆は使いよ
うによって、太くも、細くも、小さくも描ける」「面で使う、先を使
う、全体で使う」など筆の使い方も教えてくださり、「小学校の筆は
もっと太いほうがよい」とも言われた。
そして、お昼にホールから出ていって見た滋賀県の風景を即興で描
かれた。

小さい時から絵が好きだった。小学校1年の時にお父さんが亡く
なあって、そのあとお母さん(おかん と呼ばれた)がお父さんの分
まで奮闘され愛してくださった。お母さんが 90歳になられた時、
『お母ちゃんがつくったる』という絵本を描かれた。

「貧乏だったけど、家にあるものを使って、ミシンでいろいろ作っ
てくれた。変な体操服も作ってくれて、皆に笑われた。」そんな子ども
の頃のお母さんとの思い出が散りばめられた作品であるとのこと。

「20代の頃、先行きが見えず暗闇のような気持ちでいたが、今思
えば、母親の方が暗闇だったんじゃないだろうか。絵本を描いて 食
っていけるのかい!? と。」

子どもの頃も、おとなになってからもずっとお母さんが見守って
くださってきたことや、そのお母さんの思いが自身も親になってわ
かるようになっておられるとのこと。

家族っていいなあ と、ところがほっとあたたまるお話だった。

読み聞かせ(紹介)された絵本

「おかあちゃんがつくったる」 「たこやきのたこさぶろう」

「いいからいいから1」 ~ 「いいからいいから4」

「じゃがいもポテトくん」 「だじゃれむかしむかし」

「てんごくの おとうちゃん」 「へいわってすてきだね」

「おじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃん」